

# 2015 年度 自己点検・評価報告書

青森明の星短期大学

## ■ 目次

●介護福祉専攻	02
●保育専攻	03
●教育支援部	04
●教育事業部	05
●学生支援部	06
●入試広報センター	07
●キャリア支援センター	08
●企画総務課	09
●教学就職課	10
●入試広報課	11
●図書館	12
●明の星学園生涯学習センター	13
●青森明の星短期大学国際交流センター	14
●地域連携センター	15

本年度取り組んだ課題	課題への取り組み結果	達成度	次年度への課題
1. 教育内容の充実に努め、介護福祉士は専門職であることの自覚と資質の向上を図る。	介護現場の専門職を積極的に講師として招聘し、臨場感のある授業を行った。また、身体障害者、知的障害者本人に来学していただき、直接講義、討論を行い深い理解の一助とした。	A	教育内容の充実に努め、介護福祉士は専門職であることの自覚と資質の向上を図る。
2. 卒業後の進路として、就職率とともに4年制大学の通信課程3年次編入を通して、幅広い有能な福祉人材の育成を図る。	入学して間もない1年生の時から、「介護福祉士しか」「介護福祉士でも」の「でも・しか」だけの人材ではなく、介護を通して社会福祉士、精神保健福祉士の分野とも繋がっていることを説明し、関心を持ってもらうことを早くから動機づけしてきた。その結果、若干名の学生が意欲を示している。	B	地域に向けた講座の開設について、地方銀行の職員研修の際に、顧客対応マニュアルとしての介護研修ニーズに応じて出張講義する。また、県内各中・高校向けに作成した「かんたん介護入門」の出前講座に出かける。
3. 福祉関連資格の取得を奨励し、多様なニーズに対応する人材の育成に努める。	卒業後、3年目、5年目の区切りで実習指導担当者研修や介護支援専門員（ケアマネジャー）資格受験があることを説明し、将来に向かって資質の向上を図るよう意識づけをしてきた。	B	介護・福祉専門職として求められる社会人基礎学力（礼儀やマナー等）を高める。
4. 卒業後のフォローアップ体制の充実に努めるため「リカレント教育」を推進する。	短大卒業後のフォローアップと母校とのつながりを図るために「リカレント教育」を推進してきたが、卒業学生との連絡に不十分な部分があったことから参加学生数が伸びない結果となった。	C	4年制大学通信課程の編入を推奨していく。
5. 生涯学習センターと連携し、「介護初任者研修」「介護技術講習会」を実施するとともに「実務者研修」体制整備を推進する。	初任者研修は10人未満であったが介護技術講習会は162名の参加者があり、ほぼ募集定員通りと言える。技術講習会の受講者数では県内で一番の実績と言える。実務者研修については準備が整い3月1日からの募集案内の発送の準備ができています。	A	

※達成度＝「ほぼ達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

#### 自己点検評価委員会からの評価

地域向けの講座やオープンキャンパスを通して広報活動を充実してほしい。

本年度取り組んだ課題	課題への取り組み結果	達成度	次年度への課題
1. 生涯学習センターとの連携で、在学2年+卒業3年を視野に入れた人材養成プログラムの検討	今年度は、新卒者対象講座（気になる子ども）及び卒業3年目までの卒業生対象講座（リトミック）を開催したが、体系的には実施できなかった。	B	体系的な人材養成プログラム（在学2年+卒業3年）の構築及び卒業生への周知方法の見直し・改善
2. 特色ある教育活動の推進（多様なボランティア活動への参加促進、子育て支援に関する取り組みの推進など）	今年度は、一年生全員が保育ボランティア以外のボランティアを体験し、「地域貢献」に対する意識を高めた。一方、子育て支援に関する取り組みについては、学内で「遊びの広場」の開催を視野に入れていたが、開催までには至らなかった。	B	特色ある教育活動の推進（特に、子育て支援に関する取り組み）
3. 実習指導ガイドブック（仮称）の内容の精査・完成	実習ガイドブックは、授業に活用しながら内容の精査を行ったが、未だに不十分で製本には至らなかった。	B	実習指導ガイドブックの内容の充実及び製本
4. 各校務分掌（部・センター）との連携の強化及び情報の共有化	進路、入試、学生指導において情報共有ができ、相互の不足分を補完し合うことが出来た。	A	実習指導における教員間の連携の強化及び実習指導内容についての共通理解の徹底
5. 授業内容の重複解消や各種サブ資格の統廃合を視野に入れた教育課程全体の見直し・改善	シラバスの確認や適宜授業担当者への聞き取りを行い、授業内容の重複の解消に努めた。また、「実習指導内容」との整合性を図るために、必要に応じて授業担当者に授業内容等の修正を検討して頂いた。教育課程全体の見直し・改善については、今年度は行わなかった。	B	基本的な生活習慣、礼儀作法・一般常識等を身につけるための講座等の開設（「キャリア・サポート」の授業内容を勘案しながら）
6. 基礎学力を高めるため外部検定試験の導入（保育英検、漢字検定、国語力検定など）	外部検定試験については、保育英検を1回実施したが、その他の試験については、実施できなかった。	C	保育現場等への出前講座の企画・実施。
7. 「改正認定こども園法」制定に伴う特例講座の開設	本学を会場に保育士資格取得のための特例講座（相談支援・乳児保育）を開設した。	A	

※達成度＝「ほぼ達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

子育て支援に関する取り組みを具現化してほしい。

本年度取り組んだ課題	課題への取り組み結果	達成度	次年度への課題
1. カリキュラムマップの作成	小グループでカリキュラムマップの作成を行った。原案はカリキュラムマップ等 WG において更なる検討を重ねられた。	B	カリキュラムマップを使って、学習効果を学生にわかりやすく説明を行う。
2. 科目コードの見直し	カリキュラム編成のマイナーチェンジに伴い科目コードの見直しを行った	B	科目コード全体の見直しを行う。
3. 授業科目概要の見直し	授業科目概要に含まれるべき項目を検討し、様式をマイナーチェンジした。また、学習成果（成績評価）方法の項目をわかりやすくした。	B	数量的データのみではなく、カリキュラムマップにあるように、各科目において、どのような能力が獲得できるかという質的データを測る項目を追加する。
4. 授業評価アンケートの見直し	質問項目の検討を行うとともに、質問項目に教員が自由にアンケート項目を設定する欄を設けた。	B	アンケート項目の見直し及び用紙サイズの検討をする。
5. GPA 制度の整備	2015 年度入学生から GPA 制度を導入した。	C	実施に向けて、教員側および学生側に十分な説明を 4 月に行う。
6. 授業数及び試験日の確実な設定	行事による休講や補講等を含め、既定の授業数の確保及び試験日を確実に設定した。	A	追試験及び再試験の実施時期や期間に時間的な余裕がないので工夫する。
7. 補講の設定、確認、実施の周知	各種実習や行事による授業の調整および周知を滞りなく行った。	B	設定した日時に変更が生じた場合の、迅速かつ正確な情報伝達を工夫する。
8. アクティブ・ラーニングの推進	FD 研修を 2 月に行い、アクティブ・ラーニングの学びの技法を紹介した。次年度からは授業の一部に必ずアクティブ・ラーニングを取り入れ、授業研修会を継続していく仕組みづくりをした。	B	各教員が、お互いに刺激しあい、授業をよりよくする工夫をして、学生の主体的な学びを支えていく気運をさらに高める工夫をする。
9. MOS 検定の円滑な実施	試験実施会場登録をしているので、円滑な試験実施のため、マシンのハード面の保守及び使用ソフトのアップデートを随時行った。(10 テスト実施)	A	高大連携や一般受験による実施テスト数の増加につながるように環境を整備していく。
10. 学修ポートフォリオの活用	必修の授業時に、学修ポートフォリオの活用方法を学生に説明した。	C	様々な授業で活用するように啓蒙する。

※達成度＝「ほぼ達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

#### 自己点検評価委員会からの評価

学修ポートフォリオを活用させ、その結果を検証してほしい。

本年度取り組んだ課題	課題への取り組み結果	達成度	次年度への課題
1. 教員免許更新講習の運営	<p>●必修領域：「学校教育の今日的な課題に関わる研修講座」（6h×2リポート）定員80名、4回実施。</p> <p>●選択領域：                      「学習指導技術講座A・B・C」（各6h）定員各50名、3回実施。                      「教育カウンセリング研修講座A・B」（各18h）定員60名、3回実施。                      「保育実践講座A・B」（各6h）定員各40名、2回実施。                      「小学校英語講座」（6h）定員各20名、1回実施。                      「教育カウンセリング専門講座」（18h）定員40名、3回実施。</p>	A	<p>各講座とも定員を超える申し込みがあり、次年度はその受け皿の一助となるよう、講座を増やす方向（内容は反復）で申請中。次年度は選択必修科目についても開講の予定。</p> <p>必修領域：「学校・教員をとりまく近年の状況」（6h）定員80名、9月予定。                      選択必修領域：「教育課題の対策と実施」（6h）定員80名、9月予定。「保育技術講座C」（6h）定員40名、10月予定。</p>
2. 高大連携事業について	<p>保育に関する卒業生による出前講座（5/14、於：青森中央高等学校）                      一日体験講座（保育の進路を目指す生徒対象）9：00～12：30（8/6、於：本学）</p>	A	<p>卒業生の講座については、出身高校に限定せず新卒5年以内を目処に人材を派遣する。</p>
3. FD およびアクティブラーニング等の実施について	<p>第1回：10/27 公開研究授業「介護福祉総論Ⅱ」（於：1402）およびシェアリング（11/11、15：00～16：00、於：1402）                      第2回：11/30～12/4 公開授業週間（全ての授業の自由参観）および指定参観3科目とシェアリング（12/16、14：45～15：45、於：1402）                      第3回：2/19「アクティブラーニングについての研修会」（13：00～14：00、於：1402）</p>	A	<p>2015年度の一連のFD研修会のテーマであった「アクティブラーニングの理解と実践」を踏まえ、次年度は教員各々の授業において展開し、さらに実践の結果や報告について、研修およびシェアリングを行うことが課題である。</p>
4. 研究倫理規定の整備	<p>研究規程及び研究倫理規定の整備を行った。</p>	A	<p>実際に運用しながら、さらに整備していく。</p>
5. 地域連携事業について	<p>浪打商店会との地域協定を締結し、夏祭り・秋祭り等に地域福祉ボランティアワーク、その他の授業において、地域への提言を含むアクティブラーニングの実践を試みた。</p>	B	<p>次年度の該当科目と地域交流の内容等について、参加する学生の人数確保等の見直しが必要。</p>
6. 助成研究の公募状況等の周知	<p>科研費等の各種助成研究の周知（随時）。科研費2件申請（保育専攻）。</p>	B	<p>各専攻とも申請件数および採択数を増やしていくことが課題。</p>

※達成度＝「ほぼ達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

高大連携に関して、他校との連携協定を結び発展させてほしい。

本年度取り組んだ課題	課題への取り組み結果	達成度	次年度への課題
1. 課外教育・活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>課外教育（各種研修会） フレッシュマンゼミでの研修会では SNS の危険性についても触れた。 全学研修会は 2 年生の出席率が相変わらずあまりよくない。</li> <li>課外活動・地域貢献事業 今年度のボランティア活動（1 年生を除く）回数 25 回、のべ人数 71 人。音楽療法関連活動がなくなったため、回数や人数減。</li> <li>T シャツデザインコンテスト 学生のアイデアを本学の広報活動に生かすという視点から、新しいコンテストを実施。5 名・8 点の応募あり。</li> </ul>	B	<p>全学研修会に関しては、何かの振替授業として捉えられないか検討する。</p> <p>Σ 補助金のより有効な活用方法の検討が必要。（1 年生への使用も視野に）。</p> <p>応募者 5 名中 4 名が 2 年生であるため、1 年生の応募者を増やしたい。</p>
2. 学友会活動支援	<p>体育祭、クリスマスミサは特に問題なく終了した。学生祭は連絡体制にやや問題があった。また、より魅力的になるように検討が必要。</p> <p>サークルを立ち上げたが、その活動の成果が見えないものもあった。</p>	B	<p>掲示版の活用の徹底。また、予算配分を検討する。</p> <p>学生祭等での何らかの発表を前提に、サークルの新設・更新を行ったらどうか。</p>
3. 奨学金  学生アメニティ	<p>日本学生支援機構奨学生の学内審査は行わなかった。奨学金受給者に成績不振な学生がいる。 あけのほし奨学金：3 月 1 日に 2 名選抜。返還が滞る卒業生がいる。</p> <p>みんなの声に数点投書あり。授業評価アンケート回収方法の統一が必要。 卒業週間に全学生に対し、学生ラウンジやカフェテリア等、アメニティに関するアンケートを実施予定。</p>	A	<p>結果（成績）が出る前に、成績不振にならないように個別に促す必要がある。</p> <p>近年、経済事情優先の選抜をしているが見直しも必要。</p>
4. 防災関連	<p>前期は火災、後期は津波を想定し避難訓練を行う。訓練実施にあたって、役割や学生・教職員の動きをより明確にしたため、滞りなく行われた。しかし、学生寮に帰ろうとする学生がいたり、やや緊張感に欠けたところもあった。</p>	B	<p>日頃から想定できる災害時の避難方法を意識し、訓練の目的をより明確にする必要がある。</p>
5. 学生相談室	<p>現在まで、24 名が 53 回に渡り、進路・人間関係・学生生活等で相談。ほぼ全員が解決・改善した。現在は 1 名が継続で相談中。学生アンケートでも相談室の状況を把握する予定。</p>	A	<p>相談室までの通路が暗い。冬場の日が短い時だけでも相談終了時まで明かりを点けたままにしてほしい。</p>

※達成度＝「ほぼ達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

### 自己点検評価委員会からの評価

アンケート調査に基づいた改善を試みてほしい。

本年度取り組んだ課題	課題への取り組み結果	達成度	次年度への課題
1. 広報活動の重点化	<p>市内・県内を重点校・重点地域を定め、情報提供や受験生の把握を行った結果、一般1期までの受験者数は次のようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増加（弘前・黒石 +4、三八上北 +1、西北五+2） 計 +7</li> <li>・減少（青森市 -15、下北 -2、上十三 -1、秋田県 -1）計 -18</li> </ul> <p>青森市内の落ち込みが激しく（青森中央・青森商業ともに -7）、特に介護福祉専攻受験者が激減した。（昨年度 15 名→今年度 4 名）</p> <p>保育専攻は、1 名減となっているが昨年度とほぼ同等といえる。</p>	B	<p>介護系統の減少は、本学だけではなく、県内の他の大学等でも同様のようである。高卒の就職が好調だったこともあり介護系統の希望者が減少した。</p> <p>奨学金等の情報をはじめ、資格を取ってから介護系に就職する有意性をアピールして行く。キャリアビジネスコースの新設にとともに、新コースの情報提供に努める。</p>
2. オープンキャンパスおよび学校見学会の内容見直し	<p>オープンキャンパスは、昨年度同様に学生スタッフを使い、受験希望者が気軽に話せることをめざした。年々参加者が増加していることから内容としては成功していると思われる。</p> <p>学校見学会は、前年度と比べて1校多い訪問があった。</p>	B	<p>学生スタッフと綿密な打合せを行い、より受験生目線に立てるよう内容の充実を図る。</p> <p>高大連携校の青森中央高校および中里高校には、学校見学会におけるバスの手配だけでなく、こちらから出向いての説明会を開催できるよう打診していく。</p>
3. ホームページ（以後 HP）等によるメディアの活用	<p>HP を高校生が持つスマートフォンで見ることができるよう更新した結果、HP からのオープンキャンパス申込や資料請求が増加したことから成果があった。</p> <p>昨年に引き続きテレビコマーシャルを行い、多くの反応があった。</p>	B	<p>HP の更新を密にし、新鮮な情報が常にあるよう努める。</p> <p>TVCM の他、新聞広告・折り込みチラシ・DM（ダイレクトメール）などを使った広報も積極的に取り入れていく。</p>

※達成度＝「ほぼ達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

オープンキャンパスの内容を充実させ、参加者の定着率を上げてほしい。

---



---

本年度取り組んだ課題	課題への取り組み結果	達成度	次年度への課題
1. 合同就職説明会	進路ガイダンスとして本学主催の就職説明会を3回開催した。就職を意識する貴重な機会となった。	C	介護専攻出席率は100%であったが、保育専攻の学生参加者が低調であった。両学生が積極的に参加できる方法を検討する必要がある。
2. キャリアサポートと進路ガイダンスの連携	キャリアサポートと進路ガイダンスが重複しないように連携した。その結果、各界の有識者より貴重な話を聞く機会を得ることができた。学生にとって人間力育成となった。	A	今回、キャリアサポートと進路ガイダンスを連携することにより重複のない講座を実施することができた。次年度はキャリアサポートを通年必須科目にするため、今年度同様に内容の充実を図る。
4. チューター毎の就職支援	就職担当者を中心とし、チューターがきめ細かい就職指導を行うことができた。	B	一般企業を希望する学生の増加傾向にあるため、今後は、一般企業を視野に入れての就職指導を行う必要がある。
5. キャリア支援ハンドブックの作成	数年ぶりにハンドブックを作製した。内容や学生の関心度は概ね良好であった。	B	今年度作成したことにより、次年度はより内容の充実を図りたい。

※達成度＝「ほぼ達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

キャリア支援センターと各専攻との連携を更に強化してほしい。

本年度取り組んだ課題	課題への取り組み結果	達成度	次年度への課題
1. 大学ポートレートへの参加に伴う学科・他課との連携	大学ポートレートは、学科・委員会・他課と連携をとりながら、教育情報を収集して精査し公表に至った。その結果、昨年度よりより良い教育情報の公表となった。	B	私立大学等経常費補助金について、関係部署との更なる連携の強化
2. 私立大学等経常費補助金申請の為の学科・他課との共通理解と連携	学科・委員会・他課と補助要項の見誤り等が起こらないよう、申請部署とチェックを行いながら共通理解を深めた。そのことによって、学内全体で申請作業に取り組むことができた。	B	学生納付金延納者の支払い状況の明瞭化
3. 公的研究費の管理・監査のガイドラインに伴う規定の整備	文部科学省のガイドライン改正に伴い、教育事業部等と連携を取りながら、本学の公的研究費に関する規程整備に取り組み、「公的研究費の管理・監査に関する規程」の改正と「本学における研究に関する行動規範」が定められた。	B	文部科学省の公的研究費に関するガイドラインについて、更なる体制整備のための関係部署との連携強化
4. 福利厚生の情報提供や教育環境の整備	例年通り、学内 LAN・チラシ等の配布物で全員に周知した。年金等は、個別に情報を提供し助言した。また、学生ラウンジに新しく分別用ゴミ箱・電子レンジ・電気ポットを設置し、教育環境を整備した。	A	
5. 業務全般のチェック体制の強化	課内での情報を共有し、昨年同様チェック体制の強化に繋げた。	A	

※達成度＝「ほぼ達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

#### 自己点検評価委員会からの評価

情報の公表システムを確立してほしい。

今年度に引き続き、改革総合の選定をされるように全力で取り組んでほしい。

本年度取り組んだ課題	課題への取り組み結果	達成度	次年度への課題
1. 業務全般の強化	前年度からのキャンパスプラン導入により、卒業要件、資格・免許の履修登録漏れや単位不足の確認が速やかになり、各科目担当者・チューターの学生への指導に早めに対応できるようになった。	A	申請書類等提出物の不備修正について時間がかかる。
2. 学生への福利厚生	談話室・保健室等室内の整理整頓	D	談話室での飲食等多くみられる。2号棟の保健室が離れているため利用者の把握が課題である。
3. 合同就職説明会	キャリア支援センターとの連携により、就職説明会を3回（5月・6月・7月）実施した。1回目は多くの学生が参加した。回を追うごとに参加者数が減少したが、結果的に参加施設への就職者も多くみられた。	B	参加学生に専攻間のばらつきがあった。出席率向上のために、時期・参加施設等の検討をする。
4. 委託事業社会人学生への対応	委託生の受講証明書等の書類を期日までに確実に提出できた。また、実習の度に提出する通所届に関しても遅れることなく提出できた。	B	今年度のように概ね問題はないが、外部関係者の様々な変更に対して、柔軟に対応したい。

※達成度＝「ほぼ達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

保健室の整備（備品、男女利用等）を行ってほしい。

本年度取り組んだ課題	課題への取り組み結果	達成度	次年度への課題
1. 受験生の動向分析 受験生がどのルートで受験に至ったかを分析し、広報活動に反映させた。	広報活動を昨年度の11業者から7業者に絞り、広告掲載と拠点を絞った説明会への参加を行った。(青森市、弘前市、八戸市、五所川原市) また、説明会の形式も会場開催より高校内開催へ、さらに高校内模擬授業へとシフトさせた。	B	多方面からのデータを基に、高校生の動向を分析し、状況に応じた広報戦略につなげる。
2. アンケート結果の分析 オープンキャンパス時に収集したアンケートを分析し、次の開催内容に反映させた。	アンケートの内容から参加者が概ね満足していることが把握できた。 また、「両専攻を体験したい」や「サークル活動を見たい」などの要望があったため、展示コーナーを設け掲示による紹介を行った。 オープンキャンパス参加者に、次回の案内状を送り受験へとつなげた。	B	高校生の目線に立った、役立つ・楽しいオープンキャンパスになるよう内容の充実をはかる。両専攻を体験できるような日程を検討していく。
3. 学校見学会への対応 高大連携校の学校見学会に送迎バスを手配した。	短大に来てもらう機会を確保するために、見学会の送迎にバスを手配した。今後も継続し、受験生増加につなげたい。	C	模擬授業の内容をオープンキャンパスと連結したものにするなどして、受験へとつながるものしたい。
4. 広報誌の編集について フロレテ・フロレスの掲載内容を見直した。	従前8ページ編成であったものを、掲載内容を整理し6ページ編成で作ることにした。 文字も大きくなり、見やすいものと好評であった。	A	引き続き内容の見直しを行い、短大広報誌としての掲載内容を検討する。また、執筆者の選択も検討していく。

※達成度 = 「ほぼ達成 : A」「概ね達成 : B」「やや不十分 : C」「不十分 : D」

自己点検評価委員会からの評価

高校生の動向を分析し、より受験生増につながるような広報活動を行ってほしい。

本年度取り組んだ課題	課題への取り組み結果	達成度	次年度への課題
<p>1. 図書館広報事業</p> <p>①絵本の読み聞かせ講座 ②図書館であそぼ！ ③読書感想文コンクール ④図書館企画展示 ⑤ブックハンティング ⑥図書館報の発行</p>	<p>①理論と実践を取り入れた内容であるため、参加学生にとって読み聞かせのスキル向上と、実習に役立つ講座として評価が高かった。しかし、講座の参加者募集に苦勞した。</p> <p>②学生の協力を得て絵本の読み聞かせ、紙芝居、エプロンシアターとワークショップを実施した。参加者（園児、保護者）からは好評を得た。</p> <p>③応募数が少なかった。</p> <p>④季節に応じたテーマや実習に役立つ図書資料の展示を行ったが、来館者数は少なかった。</p> <p>⑤今年度初めての取り組みであるが、学生自身が図書選定を経験したことで図書館への関心の喚起となったようである。</p> <p>⑥発行は出来なかった。</p>	<p>B</p>	<p>今年度、図書館では6つの取り組みを行ったが、①③④は、参加者数、応募数や来館者数が少なかったことが課題となった。次年度は企画・運営（募集方法、講座の開催時期、内容、講師等）の見直しを図り、利用者に図書館の取り組みについての情報発信を強化していきたい。</p> <p>また、現在図書館事業の広報は、学内掲示版やブログ等で行っているが、次年度は図書館報を発行し、学内に図書館事業の周知を図りたい。</p>
<p>2. 図書資料の管理</p> <p>①蔵書点検、除籍等 ②図書資料の整備</p>	<p>①除籍作業は除籍規定に則り効率良く行われたが、一部洋書や不明図書については原簿の確認、点検に時間がかかった。</p> <p>②図書資料は専攻の図書構成の点検を実施し、不足分野の整備を行った。雑誌については購読の見直しを行った。</p>	<p>B</p>	<p>①除籍作業の効率を図るために、定期的に蔵書点検を実施し、図書資料の管理を行う。</p> <p>②選書については次年度も引き続き図書館と専攻との連携を図りながら進めていく。</p>
<p>3. 学生の図書延滞</p>	<p>掲示や教員の協力を得て延滞の通知を行ったが、図書の返却は改善されなかった。</p>	<p>C</p>	<p>他館の延滞対応を参考にし、改善策を検討する。</p>

※達成度＝「ほぼ達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

図書館便りの発行を確実に実施してほしい。

読書感想文コンテストを見直してほしい。

本年度取り組んだ課題	課題への取り組み結果	達成度	次年度への課題
1. センター講座	「懐かしの歌を歌う」「教員の資質向上・・・」の2講座の開催であったが、一定の受講者数を確保できた。受講者にも喜ばれた。	A	既存の講座を継続的に実施するための課題の洗い出しと方策を検討をする。
2. 公開講座	①地域住民だけではなく、学生も参加し、一定程度の聴衆があった。 ②広報活動が功を奏した。 ③学生以外の受講者増が懸案である。	B	次年度も2回程度の講座を実施する。 宣伝活動が最重要課題。土曜日の実施であるから、実習の視察の際にパンフレットを持って行けるような取り組みをしたい。
3. 教育カウンセラー養成講座及び免許状更新講習	①定員を上回る希望者があり、盛況であった。講座内容、地の利などがその要因である。 ②必修12時間の受講希望者増のため、更に12時間行った。また保育講座の6時間を増やしたことが良かった。本学で免許状更新講習の大半を修めることができるようにしたことが受講者に好都合であった。 ③事務的な業務が繁忙であったが、滞りなく行うことができた。	A	制度が一部変更したことに伴う内容の変更をする。 保育講座を6時間増やしたが、次年度はさらに6時間増やし、本学で選択18時間+必修及び選択必修12時間、合わせて所定の30時間を確保できるようにする。
4. 他市との連携	むつ市教委の市民大学の会場提供と講師の援助。三年連続の事業である。他市との連携のつながりとなる。	A	講座のメニューの提供が欠かせない。次年度も積極的に貢献できるよう職員の協力を仰ぐ。 むつ市以外の市と行うことも考えられる。
5. 短大と連携した事務と広報 ・「介護初任者研修」「介護技術講習会」を実施 ・ピアヘルパー等の資格取得のための事務と広報	ピアヘルパー、教育カウンセラー補、おもちゃインストラクターの事務的な業務を行うと同時に、それらについての宣伝・説明をし、学生の受講を手助けした。	A	資格の取得が次のステップにつながるようなアドバイスをし、学生の資質を高めることに寄与する。具体的には教育カウンセラー初級を視野に入れさせる。

※達成度＝「ほぼ達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

介護福祉士実務者研修を遂行してほしい。

本年度取り組んだ課題	課題への取り組み結果	達成度	次年度への課題
1. 東北師範大学人文学院（中国）への派遣留学制度の周知・派遣留学生の募集	姉妹校への留学について、オリエンテーションを行い、掲示で周知をしたが、参加希望者はいなかった。	B	学生の中国留学への関心を高めるために、オリエンテーション時や中国語の授業などで、中国の魅力と交換留学の条件等を説明していく。
2. 短期語学（英語）研修の周知と参加者の募集	オーストラリア（ケアンズ）への語学研修の周知を行い、2名の参加者があった。留学の留意点の確認や、ビザ申請等の留学手続き等のサポートを行った。	A	掲示により留学案内を行い、随時興味のある学生に説明を行う。
3. 留学生との交流	市内および県内の活動について掲示で案内を行ったが、参加者はいなかった	C	留学生が集まるイベント等を積極的に学生に紹介し参加者を募る。
(青森・長春教育学術文化交流協会関係) 4. 三役会議の開催	協会の方針の確認や年間計画の確認等を行い、滞りなく年度の業務を行った。	A	4～7については、今年度同様滞りなく実施する。 会員数増加のための方策を講じることも課題である。
5. 役員会・総会の開催	7月21日に、役員会・総会を行った。会員への会費請求等の作業を後日行った。	A	
6. 協会広報誌の編集及び発行	広報誌の企画・運営および発行を予定通り実施することができた。	A	
7. 留学生奨学金の選抜・支給	留学生奨学生対象大学（青森中央学院大学）への説明を行い、会長との面接後、定められた奨学金を支給した。	A	

※達成度＝「ほぼ達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

青森市内の留学生との交流を活性化してほしい。

本年度取り組んだ課題	課題への取り組み結果	達成度	次年度への課題
1. 本学の特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える取組  取組名称 【青森明の星短期大学 COC ～花よ花咲けプロジェクト～】	明の星パッケージ1（産官学連携） 北津軽郡中泊町において、中泊町・高校・有限会社（介護施設）と包括協定を締結した。学びの提供、人材確保、学びの保障のニーズにそれぞれマッチした取組となり、今年度は奨学金を提供する社会福祉法人等の拡大に繋がった。	A	引き続き、当該地域の重点事業となっている福祉の分野において関わり、女性の学び直し、生涯学習の充実を図る。
	明の星パッケージ2 青森市内において、本学・地元企業（書店）と包括協定を締結した。読書離れが課題となっている昨今、青森市でも同じ現象が見られ、地元企業及び市民図書館と同じ課題意識を持って活動した。 協定店とは、店内で絵本の読み聞かせボランティア、ブックハンティングを開催した。また、市民図書館主催のビブリオバトルに参加し、青森市の子ども達の読育推進に取り組んだ。	A	PRなどを充実するとともに、企画段階から当該書店との密なる連携の確立を図る。
	明の星パッケージ3 地元 NPO 法人いのちの教育ネットワークと包括協定を締結した。 青森市における児童虐待や終活に関する現状、ニーズ及び本学の教育課程に関する意見聴取について懇談会を行った。	A	連携講座を開催し、科目等履修などにより、市民の高等教育機関における学習機会を提供するとともに、教育課程の改善を図る。
2. 地域の生涯学習に関する取組	①青森県総合社会教育センター主催「生涯学習フェア」に学生を派遣し、県民に本学を紹介した。 ②本学主催（後援：青森県教育委員会、青森市教育委員会）公開講座「美の世界に誘う」（講師 鷹山ひばり氏）を広く周知し、市民に開放した。	A	新幹線開通に伴い、生涯学習も交流等の活性化が期待されており、他大学との交流しながら進めていく。

※達成度＝「ほぼ達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

中泊町に続き、他地域との連携も進めてほしい。

---



---